

今月の

5冊



ケアする人のためのプロジェクトデザイン

地域で「何かしたい!」と思ったら読む本

西上ありさ=著

定価: 2750円 (本体2500円+税10%)

発行: 医学書院

ケアの専門家が行う地域活動を「プロジェクト」と捉えて支援してきたコミュニティデザイナーが、アイデアづくりから仲間集め、企画化、広報、実践と成果物の作成までの一連の流れを「プロジェクトデザイン」として、事例を用いて解説。経験から編み出された成功の秘密をぎゅっと凝縮して伝える。

ぼくとがんの7年

松永正訓=著

定価: 1980円 (本体1800円+税10%)

発行: 医学書院



小児がん外科医が膀胱がんになった。患者の痛みを知った医師は、いったい何を思うのか。闘病を通じてくり返し「痛い目」に遭い、死についてもじっくり考えた。深刻だけどときどき前向き、そしてちょっとセンチメンタルな闘病記。がんを患ったときに生じる悩みにどう対処するかのヒントがある。

ポストコロナ時代の「通いの場」

近藤克則=編

定価: 2640円 (本体2400円+税10%)

発行: 日本看護協会出版会



外出や運動、交流の機会をつくり出し、健康増進・介護予防を図り、コミュニティの(再)構築も促す「通いの場」。コロナ禍で、改めてその重要性が明らかになった。人口1万人以下の小さな町から大都市まで、10以上の市町村の具体的な取り組みを紹介し、ポストコロナ時代の「通いの場」のあり方を考える。

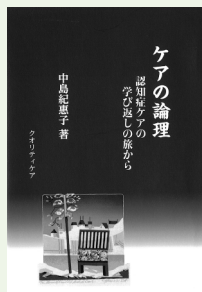
ケアの論理

認知症ケアの学び返しの旅から

中島紀恵子=著

定価: 2200円 (本体2000円+税10%)

発行: クオリティケア



著者は老年看護、介護福祉、認知症ケアの実践的教育研究のパイオニア。認知症の人とその家族、介護従事者や訪問看護師、病院看護師、さらに大学生や院生と関わりながら学び、実践を積み重ねてきた。自身の経験を学び返しながら、考え続けてきた「ケアの意味」を読者と共有する。約2年にわたる弊誌の連載から生まれた本。

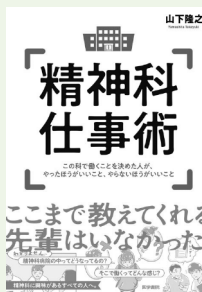
精神科仕事術

この科で働くことを決めた人が、やったほうが良いこと、やらないほうが良いこと

山下隆之=著

定価: 2200円 (本体2000円+税10%)

発行: 医学書院



精神科に初めて勤務する人は戸惑うことが多い。志半ばで離職することのないよう、著者が「ここが精神科独自のケア技術、看護業務だ」と思う部分を書き留め、まとめたのがこの本。入職間もない時期から慣れた頃まで、期間別に「やったほうが良いこと、やらないほうが良いこと」を、その理由と共に解説する。